

ATLIA

川口市立アートギャラリー・アトリア

| 年報 | Annual Report |

2019.4—2020.3

目次

基本理念／沿革	2
令和元年度 実施事業一覧	3
春の企画展 絵画展..なのか?	4
夏の企画展 第8回 新鋭作家展 あ、これ、ウチのことです。	7
第9回公募 新鋭作家展 二次審査(プレゼンテーション展示公開)	9
秋の企画展 第14回 アーティスト・イン・スクール	10
新春企画展 アートな年賀状展2020	14
ワークショップ／たのしい実技講座／やさしい鑑賞講座／アートさんぽ	16
地域・学校連携(共催)事業	18
アトリア・サポートスタッフ	20
貸しギャラリー事業	21
令和元年度実施事業件数・利用者数一覧	22
発行物／スタッフ	23
利用案内	24

基本理念

アトリアがめざすこと

川口市立アートギャラリー・アトリアは、平成18(2006)年4月にオープンした小さなアート施設です。現代アートの展覧会や地域に根ざした事業を展開し、市民が新しい表現に出会い多様な価値観を共有する場を目指しています。

アトリアの活動には5つの大きな柱があります。「企画展・アートウォッチング」「ワークショップ・アートさんぽ」「講座(たのしい実技講座、やさしい鑑賞講座)」「連携事業(地域連携、学校連携)」「貸しギャラリー事業」。これら5つの柱をゆるやかに結びながら、ものづくりのまち川口におけるアート活動の拠点として、様々な垣根を超えてアートの根をひろげます。

■ 企画展 ■ アートウォッチング

現代アートやデザインをはじめ、地域に根ざした企画展を開催しています。アートが内包する多様な価値観を提示すると同時に地域資源をアートの視点から見直すことを試んでいます。また新鋭作家のための公募展や参加型の企画も行っています。アートウォッチングはアートを能動的に見るための様々な活動を通じて鑑賞の新しい可能性を探るプログラムです。

■ ワorkshop ■ アートさんぽ

子どもから大人まで楽しめる様々な企画を年を通して実施しています。造形だけでなく身体表現や鑑賞、まち歩きなども組み合わせたオリジナルのプログラムです。講師はそれぞれの分野で活躍するアーティストや専門家がいます。

■ たのしい実技講座 ■ やさしい鑑賞講座

たのしい実技講座では初心者の方から次のステップを目指す方まで気軽にものづくりを学び作品制作をすることができます。やさしい鑑賞講座は研究者や専門家を講師に招きアートや文化について「観る・知る・深める」ための講座です。

■ 連携事業(地域連携・学校連携)

地域のアートスポットの情報発信に協力するほか、連携してイベントや展覧会などを実施しています。また学校との連携を図りながらアーティスト・イン・スクール事業を実施。学校向けのギャラリートークなども行っています。

■ 貸しギャラリー事業

市民をはじめとする一般の方々にアート活動や作品発表の場としてご利用いただくために、館内の展示室およびスタジオを貸出ししています。

沿革

施設とその成り立ち

大正14年の創業以来、約80年にわたり市民に親しまれてきたサッポロビール埼玉工場が平成15年に閉鎖されました。この工場跡地にリボンシティが生まれ、「まち歩きが楽しい新しい都市空間の実現」を開発方針として、大型ショッピングセンターや住宅街区のほか、アートパーク(並木元町公園)などが建設されました。

緑の木々や芝生などを有するこの公園内にサッポロビール株式会社から建物の寄贈を受け、川口市立アートギャラリー・アトリアが誕生しました。広く張り出したウッドデッキを持つ、集成材を利用した木構造の平屋づくり(一部2階建て)の施設は、人とアートが自然のひろがりのなかでふれあうよう設計されました。

サッポロビール工場の土台を支えた松杭がギャラリーの床材として再利用されています。

名前の由来

「アトリア」とは、アート、アトリエ、リア*に由来する造語であり、施設がアート活動を通じた市民の憩いの場となるようにとの願いが込められたものです。

平成17年8月に名称を募集。全国46都道府県から寄せられた1649通(市内からは799通)の応募のなかから厳正なる審査の結果「アトリア」が愛称として採用されました。

※川口総合文化センターの名称「リア」を指します。



令和元年度実施事業一覧

■=企画展 □=企画展関連イベント ■=共催事業
●=ワークショップ ●=たのしい実技講座 ●=やさしい鑑賞講座 ●=アートさんぽ ●=アートウォッチング

月	事業内容	貸しギャラリー
2019 4月	■春の企画展 絵画展...なのか?▶3月21日~5月12日 □ギャラリートーク▶4月7日・5月3日 □手のなかのかたち▶4月20日・21日	
5月	●アートウォッチングカード▶会期中随時参加	【スタジオ】百瀬裕明平面作品展▶5月21日~26日 【展示室B】山口昌子写真展 町内会の野球場へ行こう! in 川口▶5月22日~6月2日 【スタジオ】熊谷晴子 日高衣紅 2人展▶5月29日~6月2日
6月	●マンホールをめぐって一足元にある世界▶6月8日 ●ATLIA デビュー「色の中にとびこもう!」▶6月9日 □あなただけの「住む」をつくろう!▶6月15日・16日 ※夏の企画展関連 ■第14回 川口市美術家協会選抜展▶6月19日~30日	【展示室A・B】奥野由利 展—1119 経過—▶6月5日~16日
7月	■川口市小・中・高校硬筆展▶7月3日~7日 ■夏の企画展 第8回新鋭作家展 あ、これ、ウチのことです。▶7月13日~8月25日 □一緒に作る、あなたの「物語」▶7月13日・14日・15日 □宿題応援トーク▶7月26日 □ギャラリートーク▶7月27日・8月21日	
8月	□アーティストトーク▶8月25日 □あなただけの「住む」、教えてください!▶会期中随時参加 ●アートウォッチングカード▶会期中随時参加 ■Aplusワークショップ「ひえひえ氷アート!」▶8月31日	
9月	■Aplusワークショップ「わいわいみんなでつくろう町アート!」▶9月1日 ■第9回公募 新鋭作家展 二次審査(プレゼンテーション展示公開)▶9月7日~23日 ■第28回 水道ポスターコンクール入賞作品展▶9月11日~16日 ●立体造形に挑戦▶9月21日 ●木炭デッサンに挑戦▶9月23日	【展示室A】ダンボールアソビ展▶9月25日~29日 【スタジオ】第30回 川口市工芸会 創立30周年記念展▶9月25日~29日 【展示室B】「アニマの森」山本信個展▶9月26日~10月6日
10月	●盆栽を愛でる一美しさのひみつ▶10月18日 ■川口暮らしと連携ワークショップ▶10月26日 「おえかきパッチづくり」 「い草コースターワークショップ」 「みんなでキューブをメタリックに変身させよう!」	【展示室A】第2回 グループ快 作品展▶10月1日~6日 【スタジオ】ラッキーワイド 造形の世界 2019▶10月1日~6日 【展示室A・B】さいたま剪画展/全国剪画協会埼玉支部▶10月9日~14日 【スタジオ】アトリエ・らぼん展▶10月9日~14日 【展示室A・B】第54回 川口市小学生図画コンクール入賞作品展▶10月16日~20日
11月	■秋の企画展 第14回 アーティスト・イン・スクール▶11月2日~12月8日 タムラサトル(現代美術家)×川口市立前川東小学校6年生89人 成果発表展(われわれはワニを回す) 講師作品展(川☆ロマシーン)	
12月	□アーティストトーク▶12月1日 ●アートウォッチングカード▶会期中随時参加 ■第54回 川口市特別支援学級合同作品展▶12月11日~15日 ●みんなで飾るクリスマスドーム▶12月21日 ●文字であそぼう!はじめてのデザイン▶12月22日	【展示室A・B】第14回 小学生「身近な生き物」絵画コンクール展示会▶12月17日~22日
2020 1月	■新春企画展 アートな年賀状展 2020▶1月7日~19日 □オリジナルの型で染め体験▶1月11日 □アートなお正月あそび▶1月13日 □はじめての彫刻画▶1月18日・19日 ■川口の美術家たちのアートな毎日▶1月21日~26日	
2月	■中学生のART CLUB展▶2月1日~9日 ■川口市小・中・高校書きぞめ展▶2月13日~16日 ■川口の図工美術まなび展▶2月22日~27日 ※2月28日~3月1日 新型コロナウイルス感染症防止のため観覧中止	
3月		【スタジオ】多田由美子展「x氏の最後の晩餐」▶3月12日~22日 【展示室A・B】吉田宏回顧展▶3月18日~22日 【展示室A・B】息づく命をかたちにする 第2回羊毛工房 Quattro Pecore 生徒展▶3月24日~29日

※2019年4月1日~2020年3月31日時点の実施事業を一覧にしています。



春の企画展

絵画展...なのか？

2019年3月21日(木・祝)～5月12日(日)

観覧料：一般300円（会期中何度でも再入場できるパスポート制）
高校生以下無料。65歳以上の方、20名以上の団体、障害者手帳をお持ちの方と付添の方1人は半額。

担当スタッフ／三井知行
グラフィックデザイン／古谷悠子
記録／末正真礼生
翻訳／工藤亜由美
印刷・製本／有限会社山北印刷所
協力／成相肇（東京ステーションギャラリー学芸員）

春の企画展では毎年、現代アートを新しい視点で紹介する取り組みをしています。本展では、美術の代表的ジャンルとも言える「絵画」とは一体何なのかを再考するという試みを行いました。その切り口として紹介したのは、自らを画家ではないとしながらも四角いキャンバスに光や水の現象を描き出す山本修司氏・絵画を真剣に追求した結果として木材の立体に色を塗った作品を制作する原田要氏・抽象絵画を現実空間

に開放しインテリアや窓にも描く行為を展開する中島麦氏の3人。絵画なのかそうではないのか、その境界を探りながら制作を続けるアーティストたちの試行は、絵画についての考えを深めるのみならず、他の平面作品の鑑賞にも資するのではないかと考えられます。三者三様の「絵画」を体感した鑑賞者からは、斬新な発想や手法に驚きつつも楽しみ、絵画に対するイメージがひろがったという

感想が、アートウォッチングカードなどで寄せられました。さらに、ギャラリートークやアーティストトークにも多くの参加者を得ており、他者とともに考えるという機会として展覧会の場を生かすことができました。また、館内設備を生かして現地制作された作品や空間とのバランスを大切に展示計画を記録するため、会期中に図録を編集し発行しました。

▼出品作家

中島 麦

1978年長野県生まれ、大阪府を拠点に活動。筆をつかわずに絵具を振りかける、1色で全面を覆いつくすなど抽象絵画に見られる手法を用いながら、自立や自己完結を目指した20世紀の「抽象」とは異なる方向を模索。壁画制作やワークショップなど、他者と関わり外の世界とつながる21世紀型の活動を展開し、画題によらずに絵画のもつ社会性を探求している。



M.S.



M.S.

山本修司

1959年愛媛県生まれ、大阪府を拠点に活動。そのときどきの自分の関心や考えにもとづいて、石によるレリーフや年輪を用いた平面など多様な作品を制作。自ら「画家ではない」「塗り絵のような作品」と言いながら、近年は水面に興味をもち、水の反射をとらえた写真に様々な加工を施した作品、さらには水面を描いた「絵画」へと制作活動を展開している。

原田 要

1961年大阪府生まれ、奈良県を拠点に活動。絵画についてよく考え追求した結果として、木彫やレリーフに抽象的な彩色を施した作品を制作。きのこや花などに似た壺状の彫刻は、目に見える外側にとどまらず見えない内部まで色を塗られ作品化されている。その立体的・有機的なフォルムと美しい色彩が、絵画のあり方や絵画と彫刻の境界などを考えさせる。



M.S.

■■■■ 関連イベント

公開制作

会期前に出品作家による滞在制作の様子を一部公開。ホワイエの窓越しに見えるむこう（外）の景色をこちら側（内）からなぞって描いたり、館内の壁や備品に抽象的な彩色を施したりして展示しました。また会期中には窓の景色をなぞる作品の続きを制作し、館内や公園を歩き交う人々とも交流しながら完成させました。

開催日時／会期前：3月16日(土)・17日(日)
会期中「コチラとムコウ in 川口」：3月23日(土)
各日11:00～12:30 / 13:30～16:00

見学者／会期前：合計171人
会期中「コチラとムコウ in 川口」：39人

講師／中島 麦(本展出品者)
参加費／無料(観覧料別途)



ワークショップ コチラとムコウ in 川口

会期前に行った公開制作の手法を体験しました。スタジオの窓のむこう側にあるものをなぞって描き、講師の作品を大きく拡張。その後、枠つきの透明プラスチック板を手に公園へ。各自が持つ小さな窓の「むこう側」を思いおもいに描きました。スタジオの窓の作品は会期中展示し、外で制作した作品は参加者が持ち帰りました。

開催日時／3月24日(日) 10:30～12:30
参加者／小学生以上13人
講師／中島 麦(本展出品者)
参加費／500円





ワークショップ 手のなかのかたち

両手をあわせたときにできる空洞=見えなにかたちを型取りしたものを整形して作品化しました。石膏粉を水で溶き、好みにより1・2色の絵具を混ぜてしばらくしたら、組みあわせた両手の中の空洞に流し込みます。あとは石膏が固まる時に発する熱を掌で感じながらひたすら待ちます。固まって取り出された「手のなかのかたち」は耐水ペーパーで研磨してかたちを整え、完成させました。

開催日時/①4月20日(土) 17:00~19:00
②4月21日(日) 10:30~12:30
参加者/①高校生以上 6人
②小学3年生~中学生 14人
講師/原田 要(本展出品者)
参加費/500円



アーティストトーク

展示作品の説明やこれまでの制作の変遷などについて、会場をめぐりながら出品作家自らが語った後、スタジオの一角に席を設け、近代以降の絵画に対する理解や、現代の美術における絵画のあり方などについて話しあいました。

開催日時/3月21日(木・祝) 14:30~16:00
参加者/主におとな 38人
講師/中島 麦・原田 要・山本修司(出品作家)
参加費/無料(観覧料別途)



やさしい鑑賞講座 絵画の現在を楽しむ

綿密な調査のもとつきながら斬新な視点から展覧会を企画し、現代美術にも造詣が深い講師が、絵画を中心とした作品の楽しみ方について講演しました。様々な作品を投影しながら行われた具体的な解説は、その作品を離れても作品をじっくり味わう際に応用できる内容でした。

開催日時/3月29日(金) 19:00~20:30
※本講座のため特別開館
参加者/主におとな 16人
講師/成相肇(東京ステーションギャラリー学芸員・図録寄稿者)
参加費/無料(観覧料別途)



ギャラリートーク

本展担当スタッフが企画意図や出品作家・作品などを分かりやすく紹介しながら会場をめぐるギャラリーツアー。20世紀以降の絵画の変遷やそれを踏まえた各出品作家の表現の探求、本展での取り組みについて解説しました。

開催日時/4月7日(日)・5月3日(金・祝)
各日14:30~15:30
参加者/合計39人
案内/学芸スタッフ
参加費/無料(観覧料別途)

特設コーナー アートウォッチングカード

利用者の自発的な鑑賞を助けるツールとして、作品を見る視点と感想記述欄をあわせたカードを配布しました。記入されたカードは会場の一角に設けたコーナーに展示し、残りもファイリングして公開。自由で率直なコメントの数々が更なるヒントとなり、鑑賞者同士のコミュニケーションが生まれました。

開催日時/会期中随時
参加者/合計649枚
参加費/無料(観覧料別途)



夏の企画展 新鋭作家展 第8回優秀者 上坂直・蓮沼昌宏

あ、これ、ウチのことです。

2019年7月13日(土)~8月25日(日)

観覧料:一般300円(会期中何度でも再入場できるパスポート制)
高校生以下無料。65歳以上の方、20名以上の団体、障害者手帳をお持ちの方と付添の方1人は半額。

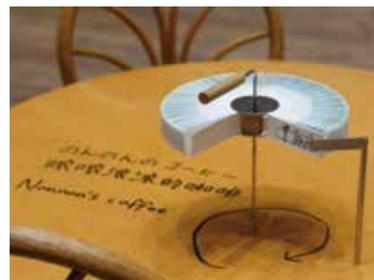
担当スタッフ/秋田美緒
グラフィックデザイン/伊藤ヒロコ (Lallasoo Poopo Lab.)
記録/末正真礼生
記録集印刷・製本/株式会社グラフィック

〈新鋭作家展〉は市の文化芸術振興と新鋭作家の発掘・育成を目的とし、アーティストから実施したいプランをひろく募集しています。審査で選ばれた優秀者は1年ほどかけて地域リサーチや市民参加イベントなどを行い、当ギャラリーと協働で展覧会をつくるプロジェクトとも言える試みです。会場では、作品だけでなく、取材過程やスタッフとのやりとりを資料として公開し、より身近に感じられる内容を目指して継続しています。

第8回審査で選出されたのは上坂直氏と蓮沼昌宏氏の2人です。上坂氏においては、都市の暮らしへの違和感を契機に、地域で目立つタワーマンションをモチーフとした大型の立体作品を展開。来場者から集めた意見を作品に取り入れたミニチュアの部屋を精巧に表現し、普段は見えない他者の生活が凝縮された都市の裏側にアプローチしました。一方で、蓮沼氏においては大規模団地に暮らす多国籍な住民に聞き取りを行い、その話を元にした物語を手回し式のアニメーションで表現しました。多文化に隠れる個人という単位に注目することで、より丁寧に他者との暮らしを感じ、自らの視点で読み解いていく試みとなりました。例年、審査から展示までの過程を取めた記録集を作成しており、継続事業でありながらも毎年個性が異なる取り組みを行ってきた積み重ねをご覧いただけるよう工夫しています。



M.S.



M.S.

▼出品作家

上坂直

1991年兵庫県生まれ。2017年武蔵野美術大学大学院造形研究科修士課程デザイン専攻(建築コース)修了。整った区画や建物の中に潜む人間らしさに興味を持ち、建築を学んだ素地を生かした手法で制作を続ける。

蓮沼昌宏

1981年東京都生まれ。2010年東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程芸術専攻(美術解剖学)修了。絵画・写真・アニメーションなど多彩な手法を用い、社会と個人とのかわり方や心のうちのファンタジーにアプローチする。

■■■
関連イベント

参加型公開制作
あなただけの「住む」をつくろう！

小さな透明のキューブのなかにミニチュアの部屋をつくるオープン参加のワークショップ。出品作家の作品に近づきつつ、「住む」ということについての再考を目的に開催しました。講師やサポートスタッフが参加者が思う理想的な部屋の話を聞き、メモすることで講師作品の糧にもなっています。細かな作業に没頭する参加者が多く見られ、老若男女問わず楽しめるイベントとなりました。できあがった成果物は展覧会で公開しました。



開催日時／6月15日(土)・16日(日)
各日13:30～17:00
参加者／全48組(合計74人)
講師／上坂直(出品作家)
参加費／無料(観覧料別途)



ギャラリートーク

本展担当スタッフが企画意図や出品作家・作品などについて話す一般向けのトークイベント。作品にインスピレーションを与えた地域のニュースやスタッフとのやりとりなど、展覧会の裏側とも言える部分をお話しました。質問にその都度答えていくことで対話生まれ、参加者の視点を生かした内容となりました。

開催日時／7月27日(土) 17:30～18:30
8月21日(水) 10:30～11:30
参加者／合計7人
案内／学芸スタッフ
参加費／無料(観覧料別途)



公開制作
一緒につくる、あなたの「物語」

展示作品と同じコマ撮りの手法をつかって、アニメーションを即興でつくる公開制作。講師自らが制作をしていると、子どもを中心に多くの鑑賞者に注目され、同じ手法で制作に挑戦しました。特殊な画材で窓に直接描いたものを写真に撮り、少し消してまた描く、という単純作業。そこから生まれるやりとりで講師と参加者の距離が縮まり、作品への興味を深めるきっかけになりました。成果物がすぐに会場のプロジェクターに転送される仕組みも好評を得ました。

開催日時／7月13日(土)・14日(日)・15日(月・祝)
参加者／合計63人(全14作品)
講師／連沼昌宏(出品作家)
参加費／無料(観覧料別途)

宿題応援トーク

作品についての発見をメモできるシートを携え、参加者とスタッフが対話しながら展覧会を鑑賞。美術館レポートなどに役立ててもらいました。連沼氏の作品では「キノラ」の中で起こっていることを推理。各自の注目ポイントや解釈の違いを楽しみながら物語のイメージを膨らませました。また上坂氏の作品では動く人影や部屋の様子から住人の暮らしぶりを分析し、自分たちとの共通点を見出しました。互いの想像力に感心しつつ参加者一同笑顔で学びあうことができました。



特設コーナー
あなただけの「住む」、教えてください！

「玄関には何が置いてある?」「つい廊下に置きっぱなしにしてしまうものは?」など、上坂氏の興味・制作に関連する質問が書かれたカードを会期以前から館内に設置し、利用者に答えてもらうことで作品を変化させていく試みです。集まったものを随時回収・公開・入れ替えし、上坂氏が気になるものを選び出すことで、参加者とのほそかな交流を持ちながら作品を成長させていきました。また、カードが公開されることで、参加者同士の共感にもつながった様子が見られました。

開催日時／4月18日(木)～会期終了まで、開館中随時
参加費／無料(観覧料別途)
※会期前は受付などに設置



開催日時／7月26日(金) 10:30～11:30
参加者／小・中学生と保護者 合計5人
案内／学芸スタッフ
参加費／無料(観覧料別途)



開催日時／8月25日(日) 16:00～17:30
参加者／48人
講師／上坂直(出品作家)、連沼昌宏(出品作家)
参加費／無料(観覧料別途)

アーティストトーク

出品作家が本展までの取り組みについて語るトークイベント。上坂氏は、自分が抱える都市への複雑な感情を起点に川口で得た発見を語りました。作品の内部が見える引き出しを取り出すと、考え抜かれたつくりに参加者から感心の声も。一方で連沼氏の展示空間ではその一部であるソファや椅子に参加者が座り、まるでレストランで話をしているような雰囲気。作品が放つ優しい空気が、取材にも気負わずに臨んでいたという講師の姿勢と重なります。それぞれの人柄や取り組みが臨場感を持って伝わる内容となりました。



特設コーナー
アートウォッチングカード

自由にコメントが書けるカードを配布し、集まったものを公開する、展覧会の場を生かした鑑賞促進ツールです。まちへの愛着・再発見のほか、作品へ共感が聞かれただけでなく、作品そのもののスケッチも多数寄せられました。夏休み期間にあたる小・中学生からの参加も多く、館内でゆっくりと時間を過ごす助けにもなったようです。

開催日時／会期中随時
参加者／合計911枚
参加費／無料(観覧料別途)



第9回公募 新鋭作家展 二次審査

(プレゼンテーション展示公開)

2019年9月7日(土)～23日(月・祝)

観覧料：無料

次年度〈新鋭作家展〉の出演作家を選考する、二次審査に提出されたプレゼンテーションをひろく公開するもの。一次(ポートフォリオ)審査を通過した応募者のうち9組が、2m四方(高さ3m)の限られたスペースにそれぞれ作品や資料などを展示しました。人・場所・地域とのかかわりを企画の条件として、作品制作のみならず関連して行うプロジェクトやワークショップの構想を示す、個性的なプランが多く並びました。優秀者として選ばれたのは木村剛士・遠藤夏

香の2人。木村氏は、川口の「鑄造」の技術をテーマにした精妙なミニチュア模型で彫刻とまちづくりとの関係性を表現しました。一方で遠藤氏は、まちに残る人々の暮らしの「痕跡」を手指で描くドローイングや物語性のあるスライドショーでとどめました。両者は、提出したプランをスタッフとともにブラッシュアップし、より詳しい取材やイベントなどを経た成果を、翌年の〈新鋭作家展〉にて発表します。



一次審査
(ポートフォリオ審査)…68人(組)

二次審査
(プレゼンテーション審査)…9人(組)
飯沼英樹・木村剛士・Yuni Hong Charpe・遠藤夏香・白井仁美・永井天陽・日原聖子・しばたみづき・岡村陽子(受付順)

※一次審査を通過した李 静文は都合により参加を辞退しました。

審査委員

前山裕司

新潟市美術館館長・美術評論家
埼玉県立近代美術館在職時から現代美術に関する企画展で若手作家の発掘を行いつつ、ガイド・ボランティアの立ち上げを行うなど教育普及分野にも力を注ぐ。

村田真

美術ジャーナリスト・画家
ひろい視野で国内外のアートシーンを取材し、平易な言葉で伝える記事を執筆するジャーナリスト。また画家としては戦争画に関する研究を行っている。慶應義塾大学、実践女子大学、東京造形大学などで講師を務める。

住友文彦

アーツ前橋館長
国際性・地域性を生かした企画を多く手がける。あいちトリエンナーレ2013キュレーター、別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」共同キュレーター、ヨコハマ国際映像祭2009ディレクターなどを歴任。



秋の企画展 第14回アーティスト・イン・スクール

タムラサトル作品展〈川☆ロマシーン〉

2019年11月2日(土)～12月8日(日)

タムラサトル×川口市立前川東小学校6年生89人 〈われわれはワニを回す〉

授業期間／2019年9月～11月(全5回)

成果発表展／2019年11月2日(土)～12月8日(日)

担当スタッフ/三井知行
グラフィックデザイン/中新(Lallasoo Poopo Lab.)
協力・記録/金田幸三、後藤天



K.K.



K.K.



K.K.

秋の企画展では「アーティスト・イン・スクール」事業を軸に、その講師の作品・制作活動を紹介する展示と、授業の成果を発表する展示を同時に行いました。

川口市内の小中学校にアーティストやデザイナーを講師として派遣するアーティスト・イン・スクールは、2006年の開館当初より継続してきたプログラムです。およそ1か月半におよぶ授業で深められる児童・生徒と講師の交流を通じて、互いの想像力・創造力・コミュニケーション力を育てあうことを目的として、例年1校1学年を対象に行っています。その成果は当ギャラリーに展示され、経過をまとめた記録集を作成します。

14回目となる本年度は、講師に現代美術家のタムラサトル氏を起用し、川口市立前川東小学校6年生89人(全3組)とともに全5回10時間の授業に取り組みました。

授業内容は、ナンセンスでありながらユー

モアのある作風で知られる講師の代表作である《スピंकロコダイル》から着想。ひとまずワニをつくれと指示される理不尽さの中で、なぜワニを回転させると面白いのかを考えつつ、いかに自分らしい表現を上乘せするかが児童の課題となりました。さらに基本の材料に講師作品と同じものを採用することで、技術を学ぶことも必要とされました。しかし、高度な内容への取り組みの中で講師とのコミュニケーションが多く発生し、結果として児童たちの授業への期待・楽しみにもつながったようです。

成果発表展では、講師と児童のワニを同じ空間で展示しました。すべての作品が一緒に回るという不思議なユーモアは多くの鑑賞者をひきつけました。講師作品展の会場は外からは見えない空間であえて照明を暗めにし、対照的な雰囲気の商品を紹介しています。

会場内ではアートウォッチングカードを配

布し、1171枚もの参加がありました。講師や児童へのメッセージ・作品の感想などをコメントしてもらうだけでなく、集まったものを公開することで他者の気づきを知り、また深く作品を味わう視点を獲得することを目的としています。また、会期終了後には講師や児童に届けられ、事業全体を振り返るツールになっています。

▼出品作家・講師

タムラサトル

現代美術家
1972年栃木県生まれ。筑波大学芸術専門学群総合造形コース卒業。埼玉県在住。
一貫してナンセンスでユーモアのある作風で「意味の持つ意味」について問い直し、鑑賞者が自発的に意味を考えるように誘う大がかりな作品で注目を集める。栃木県立美術館やさいたま市プラザノースなど、国内外で数多く個展が開催されている。



タムラサトル×川口市立前川東小学校6年生89人 〈われわれはワニを回す〉成果発表展

開催日/11月2日(土)～12月8日(日)
観覧無料

今回の授業プログラムは、講師のデビュー作《スピंकロコダイル》シリーズに基づくものため、成果としての児童たちの作品と、同シリーズから数点を同じ空間で展示しました。約90点の「自分らしいワニ」たちが色とりどりに回転し、タムラ氏の巨大なワニたちが回る華やかな空間は、窓越しに外から見えるため、通りがかりの人や芝生広場で遊ぶ子どもたちもひきつけ、多くの人に本事業への興味を喚起することになりました。また、壁には授業で使用されたワークシートが貼り出され、児童たちの発想やイメージと作品の関係について、より深い鑑賞を促す展示にもなりました。



K.K.



K.K.

■■■■
アーティスト・イン・スクール
授業内容・経過

1
9月26日(木)
図工室に巨大ワニ出現!



K.K.

驚きとともに今後の授業に興味を持たせ常識にとらわれない発想力を刺激するため、4.5mもある《スピンドロコダイル》を図工室に展示し、最初に児童と対面させました。講師は自己紹介の後、1人1つの「自分だけのワニ」をつくることを児童に伝え、そのために必要なイメージを描き出し、アイデアを実現するための図面を描きました。

2
10月3日(木)
初めての素材、初めての技法

スタイロフォーム（スタイロ）という樹脂の塊を削って立体をつくりはじめます。講師の実演にしたがって、まず1回目の授業で描いた平面図と立面図をスタイロに書き写し、ヒートカッターで切断。その後は歯を長く出したカッターで削って、思い描くイメージに近づけていきました。粘土細工と異なる「引き算」の手法に慣れ、大まかなかたちができたところで授業を終えました。



K.K.



K.K.

3
10月17日(木)
自分らしいワニへー体につくのは…?

大まかに削り出したスタイロを、さらに削ってかたちを整えます。これまでの道具に紙やすりも加わり、表面を滑らかにしたり凹凸や模様をつくったりしました。さらにねじった針金と紙粘土、ハサミなどで手足や「自分らしいワニ」に必要な角・翼・ヒレなど、胴体から飛び出しているパーツをつくりました。



K.K.

4
10月24日(木)
画罫点晴? ワニ、いろいろ

作品制作の仕上げの段階。歯と手足などのパーツ、作品を回転させるための軸を本体に取り付けました。その次は塗装。色を1人1色に限定して最初は頭を塗り、次にマップピンやまち針を刺して目玉にしました。最後に筆たっぶりの絵具で全身に色を塗りほぼ完成させました（数日乾燥の後、補強のためにニス塗りしました）。

5
11月8日(金)
予期せぬ未来のために

最終回は当ギャラリーで鑑賞と全体のまとめを行いました。到着後スタジオへ直行し、きれいに展示された自分たちと講師の「回転するワニ」に対面。自分のワニとワークシートを探し、他の児童の作品も鑑賞しました。講師作品展では児童から出される様々な質問に講師が答えました。最後はスタジオに戻り「最初からあきらめたり避けたりせずいろいろなことにチャレンジしてほしい。」という将来にむけた講師の言葉で締めくくられました。



K.K.

■■■■
タムラサトル作品展
川☆ロマシーン

開催日/11月2日(土)~12月8日(日)
 観覧無料



K.K.

講師の数ある作品から、文字やマークのかたちにチェーンが動くシリーズを中心に会場を構成。当ギャラリーが立地する川口市やビール工場跡にちなんだ新作をメインとして、同じシリーズの小型の作品や大量の電球が明滅する作品も展示しました。金属やセラミックなどの部品を無塗装のまま組みあわせることで制作された作品群は、手仕事による原色のワニが乱舞する成果発表展と視覚的・雰囲気的に好対照をなしていました。一方で生産性なく回転することでナンセンスさとユーモアを漂わせる点では通底しており、講師の仕事の奥深さを感じさせる展示となりました。

■■■■
関連イベント

アーティストトーク

講師が参加者とともに館内を移動しながら、自分の作品や活動、今回のプログラムについて説明しました。最初は講師作品展の会場でこれまでのアーティスト活動や制作上のコンセプトを語り、スタジオの成果発表展に移って学校での授業の様子や児童たちの作品を紹介。再び展示室に戻り授業と展示を終えての自分の感想などを語りました。

開催日時/12月1日(日) 14:00~15:30
 参加者/主におとな 23人
 出演/タムラサトル(本事業講師)
 参加費/無料



K.K.



新春企画展

アートな年賀状展2020

2020年1月7日(火)～19日(日)

観覧料：無料

担当スタッフ／佐々木ひろこ
グラフィックデザイン／芝崎曜子



応募いただいたすべての年賀状を一堂に展示する〈アートな年賀状展〉。誰もが気軽に出品できる本展は開館以来13回目となりました。全国から926通のオリジナル作品が集まり、新しい時代へむけた決意表明やこれからの1年をこぼすメッセージ、干支である「子（ねずみ）」をモチーフに、その姿や音の響きを取り入れた水彩・写真・版画・グラフィックなど、多種多様な表現が会場を彩りました。また会場の一部にて関連イベント講師である西大三氏の江戸型染め、HUITによる彫刻画（木版の版木をレリーフ作品としたもの）の展示が行われ鑑賞者の目を楽しませていました。

関連イベント

アートなお正月あそび

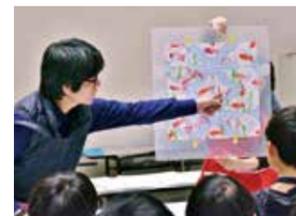
事前申込なし・出入り自由で誰もが楽しめる恒例イベント。お正月にちなんだゲームやミニ工作などの体験広場を開き、開始と同時にたくさんの親子連れが入場しました。コースに散らばる子ネズミ人形を棒で操りゴールに運ぶゲームには小さな子どもも集中力を発揮。山盛りの玉を一度に投げ込む玉入れは小学生が熱中し、自分的につくって得点を稼ぐ輪投げも多くのリピーターで盛り上がりました。家族や友だちの声援を受けながらときに競いあい、あそびの楽しさを分かちあえた様子。各コーナーの設えは当ギャラリーのサポートスタッフの手づくりで、夏頃から約半年をかけて発案から準備、運営までを担いました。1年の幕開けが、多くの参加者のにぎわいと笑顔に彩られました。

開催日時／1月13日(月・祝) 14:00～16:00
参加者／171人
案内／サポートスタッフ、学芸スタッフ
参加費／無料



ワークショップ オリジナルの型で染め体験

型染めの技法に触れながら、大きなハンカチを色とりどりに染めるワークショップ。まずはハンカチを折り紙のようにたたみ、角や辺に顔料を染み込ませる折染めをしました。顔料を少しつけただけでも面白いかたちに色がひろがり、まるで背景のような模様になる制作のアイデアがわいてきたよう。次の型づくりでは、コピー用紙をハサミで切って下絵をつくり、それをクリアフォルダーに貼って切り抜きます。切り抜いたかたちの外側をつかうという難しい工程に苦戦しつつも、細かい作業に打ち込む参加者たち。後半は、摺り刷毛という特別な道具と、自分でつくった型で摺り染めに挑戦。型の種類は多くなくても、動かしたり色をかえたりすることで表現がひろがります。表情豊かななった成果物は、最後に全員で鑑賞しました。昔ながらの技法をつかった自由な作品づくりは、日本の伝統を感じる新年にふさわしい体験になりました。



開催日時／1月11日(土) 13:30～16:30
参加者／小・中学生 17人
講師／西大三(染色家)

1968年川口市生まれ。東京藝術大学大学院美術工芸科染織専攻修了。東京ファッション専門学校講師。江戸型染めの技法を受け継ぎ、伝統的な柄に加えて遊び心あるオリジナルデザインを生み出す。一般向けの教室や子どもむけワークショップも精力的に行う。

参加費／500円



たのしい実技講座 はじめての彫刻画

版画のように絵柄を彫りながらも、紙に摺るのではなく、木そのものを作品とする「彫刻画」を2日間にわたり制作しました。事前に用意した下絵を手のひらサイズのシナの木に写し、輪郭線を残すようにデザインナイフと彫刻刀で彫り、下地材を塗って1日目は終了。2日目は乾いた下地材の上からアクリル絵具で着色し、さらに黒い絵具をローラーで伸ばすことで輪郭線を浮かびあがらせました。彫りの力加減や木の硬さに苦戦する場面もありましたが、豊富な絵具をつかった着色、ローラーをかけた後の細かい塗り残しやみ出しの修正などに、それぞれが納得いくまで打ち込みました。制作後の鑑賞の時間では、思っていたものとは違う仕上がりになったのが格好良かった、細かい作業で疲れたが楽しかったなど、満足した声がかれました。

開催日時／1月18日(土) 13:30～17:00
1月19日(日) 13:30～16:30
参加者／18歳以上 16人
講師／HUIT (アーティストユニット)

彫刻を施した版木を着色した「彫刻画」と称する作品をメインに、やきもの・ブローチ・フォトフレームなどを制作。デザインフェスタやアートマーケットに出品多数。

参加費／1000円





ワークショップ

年間を通して多くの方楽しんでいただける様々なワークショップを開催。
造形あそびに加えて身体表現や鑑賞なども組みあわせたオリジナルのプログラムを実施しています。



ATLIAデビュー 色の中にとびこもう!

大きな色紙に参加者全員で絵具をひろげ、その中に飛び込むように全身で色を体感するワークショップ。初体験でも気軽に参加できることを目指しました。まずは講師から色のしくみについてのお話。紙の色と絵具の色が重なりあうことで画面は様々に変化していきます。サポートスタッフが開発した大きな筆やローラー・スタンプなどの道具を手に、参加者は思いおもいに色の世界にダイビング! 成果はその後館内に展示されました。

開催日時/6月9日(日) ①10:30~12:30・②14:30~16:30
参加者/年中・年長 ①11人・②15人
講師/伊藤泰雅(画家)
東京藝術大学大学院油画技法・材料研究室修了。自己の内面に刻まれた造形感覚の表出の記録として描き、個展を中心に発表活動を行っている。川口市内造形教室「幸琳堂アートスクール」絵画コース講師。
参加費/500円

文字であそぼう! はじめてのデザイン

身近な「文字」を手がかりにデザインに取り組むワークショップ。講師による、手書き文字の面白さや生活とのかかわりなどのレクチャーを交えながらデザインについて考えました。前半はマスキングテープをちぎって、自分なりの「聞」の文字をつくる腕慣らし。後半は本制作として2人1組となり、互いへのインタビューをもとに相手の名前をデザインして行きました。紙や木の枝、葉っぱ、シールなど様々な質感をもつ素材を配置し、参加者それぞれイメージを膨らませながら工夫を凝らしていました。できあがった作品は人数分コピーし、一冊に綴じた本『あなたの文字 わたしの文字』が生まれました。

開催日時/12月22日(日) 13:30~16:30
参加者/小学生 18人
講師/矢萩多聞(ブックデザイナー、画家)
1980年横浜市生まれ。10代より日本とインドを往復し細密画を描く。2002年頃から本づくりの仕事をはじめ、文字デザインも含めて500冊以上の装丁を手がける。本をテーマにしたイベントも各地で開催。
参加費/500円



立体造形に挑戦

空間を意識して立体造形をするワークショップ。木の棒を組み立てて着色した立方体を転がしながら、内部の空間に線を描くようにカラフルなひもを結びつけていきます。参加者は、木棒を回転させ細いひもを結ぶ難しい作業に手間どりつつも、講師からの多方面に目を配るというアドバイスで様々な発見をかたちにして行きました。平面ではできない全方位からの制作は、立体造形の基本的な考え方を体感でき、発想が刺激され個性的な作品がうまれました。



開催日時/9月21日(土) 13:30~16:30
参加者/小学1~4年生 17人
講師/奥村拓郎(彫刻家)
東北芸術工科大学大学院芸術文化専攻彫刻領域修了。東北芸術工科大学彫刻コース非常勤講師。素材と単純な動作の重なりにより生じるかたちを木彫作品で発表。また制作の傍ら、造形ワークショップ、子どもアトリエの講師も務める。
参加費/500円



みんなで飾るクリスマスドーム

スノードームに見立てた巨大なビニールの風船の内部に、クリスマスオーナメントを装飾するワークショップ。折りたたんだ6角形の白い紙をハサミでカットして雪の結晶のかたちをつくり、無地の箱をラッピングしてプレゼントを制作したり、親子で夢中になって取り組みました。当ギャラリーのひろい空間を生かしたドーム型のビニールは、10人入ってもまだ余裕が! 参加者は順番に直接ドームの中に入り、制作した結晶やプレゼントを飾りました。全員でつくったクリスマスドームは、色とりどりのオーナメントでいっぱい。季節感あふれるロマンチックな作品ができました。

開催日時/12月21日(土) 10:30~12:30
参加者/年中・年長と保護者 24人
講師/北川 純(美術家)
1965年愛知県生まれ、神奈川県在住。1987年多摩美術大学デザイン科卒業。自らの作品を「冗談アート」と呼び、現在は風船で巨大オブジェを制作し活動中。
参加費/1000円(1組)

■企画展関連ワークショップについては該当ページをご参照ください。

名称	開催日	ページ
コチラとムコ in 川口	3月24日(日) 10:30~12:30	P.5
手のなかのかたち	①4月20日(土) ②4月21日(日) ①17:00~19:00 ②10:30~12:30	P.6
オリジナルの型で染め体験	1月11日(土) 13:30~16:30	P.15



たのしい実技講座

各分野のつくり手を講師に招き、気軽にものづくりを学んだりアート作品を制作したりするための講座です。



木炭デッサンに挑戦

絵画の基礎実技を学ぶ講座を実施しました。木炭や木炭紙の特徴、構図の決め方や描きはじめについて講師から説明を受け、制作開始。真っ白な立方体・果物・ワインボトルなど、並べられたモチーフの中から描くものを選び、大まかな輪郭をまずとらえてから細部を描いていきました。黒1色でも表現は多彩で、木炭を画面に垂直に当てれば細かい描写ができ、斜めに当てればひろく陰影をつけることができます。薄い色から徐々に濃い色を乗せていき、少し離れたところから見ることで、間近では気づかなかった画面全体の様子を確認。参加者は各々の完成を目指し、短い時間でも集中して制作しました。最後に作品を一堂に並べ全員で鑑賞。1つのモチーフを丁寧に描き込んだり、画面全体に描いたり、実際の見え方とは違う構図にしたりと、それぞれのデッサンが現れました。



開催日時/9月23日(月・祝) 13:30~16:30
参加者/小学5年生以上 15人
講師/宇田川 裕(洋画)
1979年川口市生まれ。画家。多摩美術大学卒業。川口市美術展において市長賞など受賞。2007年より白日会展出品、同会員。
吉住裕美(洋画)
1982年川口市生まれ。画家。多摩美術大学卒業。2006年より白日会展出品、同会員。
参加費/500円

■企画展関連ワークショップについては該当ページをご参照ください。

名称	開催日	ページ
はじめての彫刻画	①1月18日(土) ②1月19日(日) ①13:30~17:00 ②13:30~16:30	P.15



アートさんぽ

歴史的建造物や地域産業・文化財だけでなく、身近な場所をめぐりながら新しい視点を発見するためのツアーです。

マンホールをめぐって一足元にある世界

市の産品であり近年若者からの人気も高まっているマンホール。愛好家ならではのユニークな視点をもつ白浜氏と、製造技術に詳しい長谷川氏の解説を聞きながら、身近なマンホールの蓋を見て歩きました。実物資料や関連グッズを集めた会場で鑑賞のレクチャーを受けたあと、まずは当ギャラリー周辺をひとめぐり。かつてこの地で操業していたビール工場のマークや市のシンボルをあしらったマンホールに注目し、特別に蓋を開けて中を覗く場面も。十二星座やモザイク画のシリーズが並ぶ商店街をたどり、多彩なデザインを楽しみながら川口駅方面へむかいました。川口駅周辺には長谷川鑄工所製のマンホールも多く、さらには彫刻家でもある長谷川氏の作品や、鑄物の郵便ポストまで。鉄の蓋をめぐり、まさに「鑄物のまち」川口らしい内容となりました。

開催日時/6月8日(土) 13:30~17:00
参加者/中学生以上 20人
講師/白浜公平(マンホール愛好家)
日本のマンホール鉄蓋をこよなく愛し、その多彩さを紹介するブログや古い蓋を集めた路上文化遺産データベース(Wiki)を運営。メディアからの注目を集め、各地で講座やまち歩きイベントも精力的に行っている。
長谷川善一(長谷川鑄工所社長・彫刻家)
川口の鑄物会社で建築資材などを製造・販売。自社製のマンホールが旧国立競技場ほか全国に設置されている。美術作品の鑄造も請け負うと同時に彫刻家としても活動し、市内各所に作品が点在している。
参加費/500円



やさしい鑑賞講座

各分野における専門家を講師に招きアートについて「観る・知る」ための講座です。



盆栽を愛でる ー美しさのひみつ

地域の産品である盆栽を見る楽しみを学ぶ講座です。美しさを意図的につくりだす盆栽の美的表現に着目し、その魅力がどこにあり、どのように生まれるのかを講師のお話から探りました。前半は田口氏が「盆栽」という文字の成り立ちを導入とした基礎知識をレクチャー。樹種や形態、見どころなどを参加者への発問を交えた軽妙な語り口で伝えました。後半は飯村氏へ、日々の盆栽づくりについてインタビュー。丹念に世話をしながらそれぞれの個性が生きるよう手を加えていく、木との対話が語られました。さらに精力的な普及活動や現代アートとのコラボレーション展など新たな試みも紹介され、盆栽の未来への展望が示されました。本講座で得た視点をもとにいつそ親しみ学んでいきたいとする参加者の感想がアンケートに寄せられ、玄人むけな印象を抱きがちに盆栽にぐっと近づく機会となりました。

開催日時/10月18日(金) 14:00~16:00
参加者/18歳以上 13人
講師/飯村誠史(喜楽園 盆栽師)
川口市で生まれ育ち、1983年に喜楽園五代目として盆栽の世界に入る。国風展への出展を重ね、海外での講師や盆栽査定を務める。能楽や文化事業に協力し、別の屋号「はちす葉BONSAI喜楽園」で緑の彩りを楽しむ教室などにも励む。
田口文哉(さいたま市大宮盆栽美術館 学芸員)
旧岩槻市(現さいたま市)で育つ。日本大学大学院芸術学研究科で博士号を取得、専門は日本美術史。2009年から大宮盆栽美術館に勤務し数多くの展覧会を企画するほか、執筆活動や大学での講演も精力的に行っている。
参加費/300円

■企画展関連ワークショップについては該当ページをご参照ください。

名称	開催日	ページ
絵画の現在を楽しむ	3月29日(金) 19:00~20:30	P.6





地域・学校連携(共催)事業

展覧会

第14回 川口市美術家協会選抜展

2019年6月19日(水)~30日(日)

主催/川口市美術家協会

川口市美術家協会の各部門から選抜された会員の秀作展です。日本画9点、洋画35点、彫刻11点、工芸19点、書29点、写真17点(合計120点)の展示を行いました。



川口市小・中・高校硬筆展覧会

2019年7月3日(水)~7日(日)

主催/川口市教育研究会 書写研究部

川口市内小・中・高校の児童生徒の書写・書道教育の振興をはかるために毎年開催しています。各校の優秀作品ならびに県展覧会出展・入賞作品1,410点を一堂に展示し、多くの鑑賞者にぎわいました。



第28回 水道ポスターコンクール 入賞作品展示会

2019年9月11日(水)~16日(月・祝)

主催/川口市上下水道局

コンクールは平成4年度より小学4年生を対象に水道への理解と学習の機会をひろげるために毎年開催。今年度は32校2,566点の力作が集まり、入賞・佳作の62点が展示されました。



第54回 川口市特別支援学級合同作品展

2019年12月11日(水)~15日(日)

主催/川口市教育委員会

市内小学校21校、中学校12校の特別支援学級の児童生徒が制作した絵画や手芸などを展示しました。



川口の美術家たちのアートな毎日

2020年1月21日(火)~26日(日)

主催/川口市美術家協会

川口の美術家たちが、普段市展や協会選抜展に出品している作品とは一味違った絵画や立体作品・書など56点を展示しました。



中学生のART CLUB展

2020年2月1日(土)~9日(日)

主催/川口市教育委員会

市内中学校25校の美術部およびそれに類似する部活動の発表展示。日頃から取り組んでいるイラストレーションやポスターだけでなく、本展にむけての共同制作なども公開しました。



川口市小・中・高校書きぞめ展覧会

2020年2月13日(木)~16日(日)

主催/川口市教育研究会 書写研究部

川口市内小・中・高校の児童生徒の書写・書道教育の振興を図るために毎年開催。各校の優秀作品ならびに県展覧会出展・入賞作品1,113点を一堂に展示しました。



川口の図工美術まなび展

2020年2月22日(土)~27日(木)

※2月28日(金)から3月1日(日)まで新型コロナウイルス感染症拡大防止のため観覧中止

主催/川口市教育委員会

学年末の発表会として、川口市立小・中・高校における図工・美術での授業の成果を展示し、さらに各種コンクールなどで受賞した作品を紹介しました。



研修・実習

各種研修・ 実習などへの協力

川口市が推進している市内中学生の社会体験事業「きらり川口夢わ〜く」を中心に、中・高・大学生の職場体験およびインターンシップ事業、各種教員研修などの受け入れを行っています。



実績/きらり川口夢わ〜く(幸並中学校、戸塚西中学校)
高等学校現場実習事業(埼玉県立新座技術総合高等学校)



アトリア・サポートスタッフ

(アートボランティア登録制度)

年間を通して多くの事業を開催する当ギャラリーでは、それを支えてくださるボランティアの方々が活動しています。ワークショップや講座の参加者に寄り添い一緒に創作活動に参加したり、スタッフとのミーティングを重ねながらイベントの発案・準備制作・実施運営を担ったりなど、お手伝いとどまらない主体的な活動を目指しています。登録は4～5月に行い、活動期間を1年としています(更新可/中学生以上)。幅広い年齢層・職業の方がアートを通じて交流し、様々な体験とかけがえのない時間を共有しています。



主な活動内容

ワークショップや講座等の運営サポート

ワークショップや講座では参加者に寄り添いながらそれぞれの楽しみを見つけるサポートを行います。技術や知識は重要ではありません。自身も楽しみながら参加をすることで感動を発見し、また満足感につながる時間・空間の共有を目指します。また一般を対象としている実技講座などでは、参加者に積極的に声をかけて実現したい表現を引き出すなど、交流を大切にしながら制作のためのサポートを行います。主体的に企画を提案し運営にかかわることもあります。



展覧会、ライブラリーなど展示物に関するサポート

企画展の搬入・設営・撤去のお手伝い、またミニライブラリーに置く本の整理・ディスプレイなど、館内で展示・設置する一部の作品や書籍に関するサポートも行っています。



月例会

月に1度程度のペースで活動の内容や方針について話しあう場を設けています。スタッフとやりとりしながらこれまでに気づいたこと・これからやってみたいことを共有し、利用者の目線に立ったより良い施設運営へとつなげます。自分の興味や特技を生かして活動しているメンバーが寄り集まり、意見交換と提案をする機会です。

登録者数

令和元年度	17人(令和2年3月現在)
-------	---------------



貸しギャラリー事業

市民をはじめとした一般の方々にアート活動や作品発表の場としてご利用いただくため、館内の展示室およびスタジオをお貸ししています。今年度は展覧会などで16件ご利用いただきました。

※一覧はP.22を参照ください。



〈ダンボールアソビ展〉



〈奥野由利 展 —1119 経過—〉

展示空間

展示室 Exhibition Space

どなたでも気軽に立ち寄れる企画展示や市民のアート作品発表の場です。ゆったりとした空間(天井高5m)で作品発表や鑑賞を楽しむことができます。可動壁により2室に分けられ、小品から大型作品まで様々な展示が可能です。

スタジオ Studio

ワークショップや講座など様々な美術活動を行う場所です。屋外との一体感があるこの空間は創作活動の幅を大きくひろげます。

ホワイエ/ウッドデッキ Foyer/Wood Deck

アートパークの景観と喫茶を楽しみながら休憩できる場所です。また、ウッドデッキはワークショップなどの活動の場にもなります。

フロアマップ

展示室A/77.5㎡・壁面の長さ 計29.1m
展示室B/77.5㎡・壁面の長さ 計29.1m
スタジオ/195㎡・壁面の長さ 計21.2m
ピクチャーレールの高さ/展示室3.5m・その他4.8m

利用料

	市内在住・在勤・在学	左記以外
展示室A	10,470円	15,700円
展示室B	10,470円	15,700円
スタジオ	20,900円	31,400円

※料金は1日あたり
※貸出は展示室は1週間ごと、スタジオは1日ごと



利用申込

申込は利用期日の1年前から募集を受付しています。専用の「貸しギャラリー申込書」に必要事項を記入のうえ当ギャラリーへ持参してください。郵送・FAXでも受付しています。申込書は、当ギャラリーの受付で配布するほか公式ホームページ(<http://www.atlia.jp>)からダウンロードすることもできます。※申込多数の場合は公開抽選にて決定します。尚、公開抽選は申込期間の翌月(原則第1日曜日)に行います。

令和元年度 実施事業件数・利用者数一覧

事業名(企画展)	開催日数(日)	鑑賞者数(人)
春の企画展 絵画展...なのか?	37	1,575
夏の企画展 第8回 新鋭作家展 あ、これ、ウチのことです。	38	2,029
第9回公募 新鋭作家展 二次審査(プレゼンテーション展示公開)	15	1,212
秋の企画展 第14回 アーティスト・イン・スクール	32	4,727
新春企画展 アートな年賀状展2020	12	2,286
小計	134	11,829

事業名(地域・教育機関連携)	開催日数(日)	鑑賞者数(人)
第14回 川口市美術家協会選抜展	11	1,063
川口市小・中・高校硬筆展覧会	5	8,285
第28回 水道ポスターコンクール入賞作品展示会	6	403
第54回 川口市特別支援学級合同作品展	5	1,625
川口の美術家たちのアートな毎日	6	624
中学生のART CLUB展	8	1,374
川口市小・中・高校書きぞめ展覧会	4	4,120
川口の図工美術まなび展	5	1,877
小計	50	19,371
合計	184	31,200

事業分野	件数	開催日数(日)	参加者数(人)
ワークショップ	7	7	245
たのしい実技講座	1	1	15
やさしい鑑賞講座	1	1	13
アートさんぽ	1	1	20
企画展関連イベント ※WS、鑑賞講座、公開制作、 ギャラリートーク、アーティストトークなど	13	18	483
合計	23	28	776

※2019年4月1日～2020年3月31日に実施した事業の集計です。

■貸しギャラリー利用

展覧会名	展示室区分	利用日数(日)	鑑賞者数(人)
百瀬裕明平面作品展	スタジオ	6	99
山口昌子写真展 町内会の野球場へ行こう! in 川口	展示室B	12	369
熊谷晴子 日高衣紅 2人展	スタジオ	6	192
奥野由利 展—1119 経過—	展示室A・B	12	462
ダンボールアソビ展	展示室A	5	342
第30回川口市工芸会 創立30周年記念展	スタジオ	5	974
「アニメの森」山本信個展	展示室B	11	334
第2回 グループ快 作品展	展示室A	6	246
ラッキーワイド 造形の世界 2019	スタジオ	6	324
さいたま剪画展/日本剪画協会埼玉支部	展示室A・B	6	512
アトリエ・らぼん展	スタジオ	6	604
第54回川口市小学生図画コンクール入賞作品展	展示室A・B	5	487
第14回小学生「身近な生き物」絵画コンクール	展示室A・B	6	2,472
多田由美子展「x氏の最後の晩餐」	スタジオ	11	340
吉田宏回顧展	展示室A・B	6	274
息づく命をかたちにする 第2回羊毛工房 Quattro Pecore 生徒展	展示室A・B	6	66
計		115 ※延べ日数156	8,097

年間開館日数	利用者(来館者)	月平均
266日	53,430人	4,453人

発行物

令和元年度 年間スケジュール

企画展やワークショップなどの情報をコンパクトにまとめて紹介しています。

仕様/A4変形サイズ・カラー・4つ折り
グラフィックデザイン/伊藤ヒロコ(Lallasoo Poopo Lab.)



令和元年度 アトリアニュース

隔月毎に企画展やワークショップなどの情報をまとめて紹介。館内はもちろん市内を中心に近隣の文化施設などに配布しています。

仕様/A3サイズ・カラー・2つ折り
グラフィックデザイン/古谷悠子



春の企画展 図録

『絵画展...なのか?』

「絵画とそうでないもの」の境界から絵画を考え直してみる企画展の図録。作品・展示写真や企画意図の解説のほか、成相肇氏(東京ステーションギャラリー学芸員)の論文や絵画に関する各出品作家のコメントを掲載しました。

発行/2019年4月 仕様/B5サイズ・カラー・36ページ(英訳あり)
グラフィックデザイン/古谷悠子



夏の企画展 報告書

第8回 新鋭作家展 『あ、これ、ウチのことです。』

全国公募で選出された新鋭作家の制作に、鑑賞者・参加者が加わった企画展の報告書。新鋭作家と担当スタッフがともに展覧会をつくりあげる道のり、川口のフィールドワークをもとに多くの人々と生み出した成果を掲載しました。

発行/2019年10月 仕様/B5サイズ・カラー・8ページ
グラフィックデザイン/伊藤ヒロコ(Lallasoo Poopo Lab.)



秋の企画展 報告書

『第14回アーティスト・イン・スクール』

学校での授業と成果発表展、講師作品展など、多くの要素が含まれる当事業の内容と経過をまとめ、ひろく一般に周知するために作成。講師、対象児童、学校教諭(学級担任や校長)、当館担当者によるコメントを併せて掲載しました。

発行/2020年2月 仕様/B5サイズ・カラー・8ページ
グラフィックデザイン/中野(Lallasoo Poopo Lab.)



平成30年度 事業年報

事業を総括した年報。企画展をはじめ、ワークショップ・講座、関連イベントもすべて収録。開催時の詳しい様子を、充実したカラー写真とともに紹介しています。

発行/2019年8月 仕様/A4サイズ・カラー・28ページ
グラフィックデザイン/大崎善治(SakiSaki)



川口市立アートギャラリー・アトリア スタッフ

※2020年3月31日現在

- 職員
- 青木真吾(館長)
 - 渡邊浩之
 - 秋田美緒
 - 茂木阿季
 - 三井知行(美術専門員)
 - 小野寺 茜(美術専門補助員)
 - 佐々木ひろこ(美術専門補助員)
 - 柴澤 希(美術専門補助員)

利用案内

開館時間

10:00～18:00（入館は閉館の30分前まで）

※企画展開催中の土曜日は20:00まで開館する場合があります。

観覧料

観覧会によって異なります。

休館日

月曜日 ※月曜日が祝日の場合はその翌平日

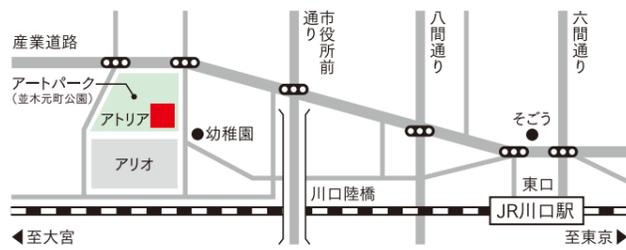
年末年始（12月29日～1月3日）

施設整備および展示入替期間

アクセス

JR川口駅（京浜東北線）東口から徒歩約8分

アクセスマップ



カフェ

土・日・祝日／10:00～18:00

川口市立アートギャラリー・アトリア

Annual Report 2019.4-2020.3

令和元年度 事業年報

発行日

令和2(2020)年8月31日

発行

川口市立アートギャラリー・アトリア ©2020

332-0033 埼玉県川口市並木元町1-76

TEL 048-253-0222

FAX 048-240-0525

URL <http://www.atlia.jp/>

アトリアスタッフ

青木真吾・渡邊浩之・秋田美緒・茂木阿季・小野寺 茜・柴澤 希・向井ひなの

編集

小野寺 茜・向井ひなの（川口市立アートギャラリー・アトリア）

デザイン

大崎善治（SakiSaki）

写真

本文内で使用している写真には、撮影者名をイニシャルで示しています。

K.K.: 金田幸三、M.S.: 末正真礼生

※その他表示のないものはアトリアスタッフが撮影しています。

印刷・製本

株式会社グラフィック

